2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	【上位目標】 グワ郡の活動地域において、自らの判断で避難行動をとることができるようになり災害時の被害が軽減され、また、日常において保健衛生を意識した生活行動をとるようになり、罹病が低減される。 【プロジェクト目標】 グワ郡の活動地域において、生徒および住民の防災意識と保健衛生意識が高まる。
	【今期事業達成目標】 LCAシステムを設置した15校区の生徒および住民の防災意識と保健衛生意識が他の地域に比べ高まっている。 【達成度】 新型コロナ感染拡大防止のため事業遂行を予定通りできなかったものがあるが、実施できたこともあるので一定の成果があったと考える。 ・LCAシステムを設置できたのは15校のうち4校であるが、ハザードマップは15校に設置できた。これらの学校、村落ではサイクロンなどの襲来時に防災情報を伝えることができるなど住民の防災能力を向上させることができた。設置した学校の位置を別紙 図1に示す。 ・保健衛生意識向上の活動では、設置した学校の校区の住民の健康状況を把握するためベースライン調査を実施した。この調査により、528人の生徒、4492人の住民、1127世帯のデータが得られた。調査結果は健康状況報告書としてまとめられ、これをもとに保健衛生授業や保健衛生研修会の教材および研修資料を作成するとともに、LCAシステムの放送で利用される保健衛生意識向上のためのメッセージ集を作成した。保健衛生授業や保健衛生研修会は第1年次には実施できなかったが、第2年次で行う予定であるので、これらの教材はその活動で活用し住民の保健衛生意識の向上を図る。
(2) 事業内容	第1年次は、新型コロナ禍の影響による制約があるなかで以下の活動を行ったが、行えなかった活動も多くあるのでそれも合わせて記載する。 事業開始に当たり州都のシトウエでラカイン州知事に当会の赤羽根理事長、本事業のプロジェクトマネージャー土橋理事が表敬訪問し、事業概要を説明した(2020年1月17日)。訪問の様子を別紙写真1に示す。 【活動1】LCAシステムの導入 [活動1-1] LCAシステムの設置 グワ郡役場と協議し、LCAシステムを設置する15校を選定し、必要な機材を購入した。選定した学校を訪問し設置のための調査とLCAシステム設置の基本設計を行った。選定した学校の校舎、授業の様子、調査で協力を得た教師、住民などと撮った写真を別紙写真3～写真6に示す。 LCAシステムの設置については、感染防止のためのミャンマー政府の移動規制により4校には設置できたが、11校は設置できなかった。設置の様様を別紙 写真7および写真8に示す。 [活動1-2] LCAシステム説明会 LCAシステムを設置した4校においては説明会を開催し、取り扱い方法や利用方法を先生、住民、生徒に説明した(別紙 写真9)。残りの11校はLCAシステムを設置できなかったため説明会も実施できなかった。

設置した4校のLCAシステムは、2020年11月に行われたミャンマーの総選挙の広報やCOVID-19の感染予防の呼びかけなどで活用された。

【活動2】ハザードマップの作成と設置

LCAシステム設置予定の学校付近の現地調査を行い、ハザードマップに必要な情報を収集した。それに基づきハザードマップの図面を作成し、予定していた15校に設置した。ハザードマップ作成のための現地調査と設置の様子を別紙 写真10～写真13に示す。

【活動3】教師向け防災研修

防災研修は、LCAシステムを設置した15校の関係者を集めて行う予定であったが、全校への設置が完了できなかったため防災研修も実施できなかった。

【活動4】保健衛生意識の向上

【活動4-1】キックオフ会議

事業地の中心地であるグワ町でキックオフ会議を行い、プロジェクト概要（活動1～活動4）とベースライン調査方法を説明した（2020年1月20日）。会議には、下記のように州レベルから村落レベルまでの関係者84人が参加した。参加者との集合写真を別紙写真2に示す。

ラカイン州：州政府 社会福祉大臣

グワ郡：首長、保健衛生部長、教育部長

村落：教師、村落代表者、助産師

【活動4-2】健康状況のベースライン調査および健康状況報告書作成

LCAシステムが設置される地域の生徒および住民の健康状況把握のためベースライン調査を実施した。調査の結果、グワ郡の生徒のBMI（ボディマス指数）で18.5以下の生徒の割合が78.8%とミャンマー平均の18%より4倍以上の高いことがわかり、生徒や父兄への栄養教育が必要であることがわかった。調査結果は健康状況報告書としてまとめられた。

ベースライン調査の様子と健康状況報告書の表紙と内容の一部を別紙 写真14～写真18に示す。

【活動4-3】保健衛生授業

授業はLCAシステムを構成する視聴覚機器を利用して行う予定であったが、LCAシステムを全校に設置できなかったことと新型コロナウイルス感染防止のため学校が閉鎖されたため授業は行うことができなかった。しかし、DVDなどの教材の作成作業は行った。

【活動4-4】保健衛生研修会

研修会はミャンマー政府の国内移動制限により開催できなかった。

【活動4-5】メッセージ集の作成

健康状況のベースライン調査および健康状況報告書をもとに事業地の保健衛生状況を反映したメッセージ集（別紙 写真19）を作成した。

【活動4-6】報告会

予定していた活動の多くが実施できなかったために、報告会を中止した。

(3) 達成された成果

新型コロナ禍の影響で当初予定していた活動の全ては行うことができなかったが、そのようななかで以下のような成果があった。

(ア) 本事業に対する協力と期待

(a) 現地行政機関および住民

ＬＣＡシステム設置校の選定にあたっては郡役場の全面的な協力が得られた。ＬＣＡシステムの設置校にはハザードマップも設置され保健衛生意識向上の活動も行われるが、設置のための現地説明会および調査・設置作業、保健衛生活動のためのベースライン調査では多くの住民の参加と協力が得られた。これは行政機関や住民の本事業に対する高い関心と期待の表れと思われる。

(b) 連邦政府

連邦政府の防災局（DDM：Department of Disaster Management）も本事業に対し高い関心と期待を持っており、ビデオなど防災研修教材の提供の申し出があり受領した。また、ＬＣＡシステムおよびハザードマップ設置のための現地調査を参加したいとの申し入れがあり、事業地の近くのタンドウェにあるDDM支局の支局長が現地調査作業を見学した。

(イ) 裨益者数

ハザードマップは予定した15校に設置できたので、危険区域の認識などの裨益に限定されるが、裨益者数は約12,600人（ハザードマップを設置した村落の人口の合計数）である。

(ウ) 「成果を測る指標」による測定結果

【期待される成果1】

ＬＣＡシステムおよびハザードマップにより、生徒や住民が防災や保健衛生に関する情報に接することができるようになる。

指標1：ＬＣＡシステム利用説明会において利用法の理解度が70%以上となる。

[測定結果]：80%

指標2：ハザードマップ設置後の説明で利用法の理解度が70%以上となる。

[測定結果]：85%

指標3：生徒の保健衛生授業の理解度が70%以上となる

[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。

指標4：生徒の90%以上がＬＣＡシステムおよびハザードマップから防災および保健衛生に関する知識を得たことがある。

[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。

指標5：住民の80%以上がＬＣＡシステムおよびハザードマップから防災および保健衛生に関する知識を得たことがある。

[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。

【期待される成果2】

学校での学習や行事などへの父兄の関心が高まり、生徒が学校で学習することに対し理解を示すようになる。生徒もＬＣＡシステムを利用した学習に高い関心を持つようになる。これらにより生徒が意欲的に学習できるようになるとともに、学校で学んだ防災知識、保健衛生知識が家族に話される。

指標6：ＬＣＡシステム委員会のメンバーの70%以上が以前に比較し父兄の学校への関心が高まったと認識する。

[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。

指標7：ＬＣＡシステムを使った授業に生徒70%以上の生徒が関心を持ち満足する。

[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。

指標8：生徒の70%以上が学校で得た防災および保健衛生に関する知識を家族に話したことがある。

	[測定結果]：関連作業を実施できなかったため測定できず。 (ウ) 持続可能な開発目標（SDGs）の視点から見た成果 (a) LCAシステム、及びハザードマップの設置・活用 前述したように、郡役場の関係者が高い関心を持ち精力的に検討する光景を見ることができた。持続可能な開発のためには他者からの支援を自立的な活動にしていくことが必要であるが、郡役場の熱心な姿勢からLCAシステムを自分たちのものとして活用していこうとしていることが伺えた。このことは、SDGsの「目標1（貧困）：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。1.5：環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。」という目標の達成が期待できるといえる。 (b) 保健衛生・健康意識の向上 住民の保健衛生に関する調査と健康状況報告書の作成、それに基づいたメッセージ集は作成できた。SDGsの「目標3（保健）：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。3d：特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。」という目標実現に向けての活動の準備はできたと考える。
(4) 持続発展性	第1年次でできなかった活動は第2年次で行う予定であるが、そのなかで本事業で得られる成果が継続して維持されるように、以下の施策を計画している。 (ア) LCAシステムの自立的な保守と運用 LCAシステムが、設置村落に定着し、長く有効に活用されるためには事業地で自立的に保守、運用されることが必要である。特に部品交換費用などの保守資金を自分たちで確保することが重要である。 (a) 村民への働きかけ 保守費をどのように調達するかをLCAシステムワークショップの重要テーマとして意見を交換してもらい、資金の調達方法を話し合う機会を設ける。 第1年次には4校にLCAシステム設置できたが11校は設置できなかった。この11校への設置は第2年次初期に行い、事業期間後半に第1年次分の15校のモニタリングを行う予定であるが、その活動のなかで住民の自立化の機運をさらに高めていく。 (b) 行政機関への働きかけ 持続発展は行政機関の支援も不可欠なので、タウンシップ長（郡長）、ラカイン州知事、及びミャンマー政府（社会福祉・救済・復興省）を訪問し、事業の状況や結果を報告するとともに、事業終了後も行政機関としての支援を行うよう要請する。 (イ) ハザードマップ作成のノウハウトランスファー ハザードマップは作成前に郡の関係者と打ち合わせし、現地調査、作成・設置を行った。活動終了後も維持・更新が行えるようにハザードマップ作成マニュアルや電子データをタウンシップ庁（郡庁）に提供し、今後も必要時には維持更新の支援をすることとしている。 (ウ) 保健衛生意識向上 提携しているPHFによれば、グワ郡のようにアクセスが悪く医療サービスを受けにくい地域では、村民同士で保健衛生知識を高めることが住民の健康改善にとって最もよい方法であるとのことである。LCAシステムのモニタリングと同じように、保健衛生意識向上活動についても第1年次の学校村落に対し保健衛生関係の状況調査を行う予定である。そのなかで、住民の意識がどの程度改善しているかを調査するとともに、住民の意識を高めるためのアドバイスを精力的に行う予定である。